

これだけをわかってほしい

やるべきことを絞る

「スーパービート板」の授業では、やるべきことを「不思議なこと」だけに絞りました。その結果、生徒たちが一生懸命考えてくれて深まりました。深まったことが、生徒から言葉として出てきました。

- いつも特別に扱っていたりすると、なぜ泣いているのかが分かるけれど、いつもみんなと同じように、仲間たちが支えながら、いっしょに生活していたから、不思議に思ったのだと思う。
- 水泳大会の日、筆者が友達に支えてもらいながら25メートル泳ぎ切ったことに対して、他校の人は今まで筆者にかかわってきていないから、涙を流してしまったのだと思う。長い年月、筆者と共に学校生活を過ごしてきたクラスメートは、他校の人と同じ気持ちになれなかった。

1時間は50分しかありません。50分で何ができるのでしょうか。授業者は時として、そのことを忘れてはいないでしょうか。そして、ふんだんな内容を50分の中に盛り込みます。消化不良。授業後に、この四文字だけが残ります。

そんなことは意外と多いのではないのでしょうか。ねらいを絞り込むことです。冗漫にならないことです。学ぶ価値のあるものに絞り込み研ぎ澄ますことです。何は学ぶ価値があり、何は学ぶ価値がないのか、この嗅ぎ分けをしっかりとやることです。

それはどうすればできるのでしょうか。教材研究しかありません。しっかり教材研究をやり、大事なところを嗅ぎ分け、取り出し、やることを絞ることです。そして、そのことについてだけ、じっくりと深く学ばせることです。

〈授業改善のポイント3〉

聞き分けてさりげなく返してやる耳と判断力。いかに産婆さんになれるか。
一生懸命考えている生徒にアドバイスができない。

「スーパービート板」の授業では、やるべきことが絞られていたためか、生徒たちが一生懸命考え、深まりました。しかし、机間指導はしても、思うようなアドバイスはできませんでした。概念で考えている生徒に対して、有効な問いかけができませんでした。教師自身の机間指導の仕方に対する訓練が足りないということです。